

雑 録

勝 手 櫻

小 泉 源 一

大和吉野の勝手神社の境内に勝手櫻 (*Prunus sacra* MIYOSHI in Tok. Bot. Mag. XXXIV. 1920. p. 168. fig. 4) 唯一株のみあり、此櫻の來歴は明にして吉野の大工職林兵太郎が吉野の竹林院の奥庭のヒガンザクラ(天人櫻)の老木の附近にありし櫻の幼苗一本を此勝手神社の境内に植ゑしが即ち此勝手櫻なり、林兵太郎は後吉野を去り五六年前に六十七、八歳にて死去せり。

勝手櫻の花は優美にして吉野にては中晩咲の方なり、花は中大にてほんのりとさくら色を呈し、萼亦中大にして萼筒は毛少きも往々ヒガンザクラのものゝ如く壺狀を呈す、萼片亦外面に少毛あり、花梗は中大にして密毛あり共同花梗なく花時苞鱗は残留す、花柱は有毛なり、花時葉をあらはさず。

葉は頗る山櫻の葉に似たるも葉柄は幼時一般に毛多く葉身下面脈腋に毛あるのみならず下面脈上にも毛を生ずるあり、成葉となれば毛は主として葉柄にのみ少しく残れり。

果實は毎年未熟中に全部落下して一も止めず、此櫻は前記の如く竹林院の庭に自然に生ぜし一の特種櫻なるが決して果實成熟せず、一般の特徴はヒガンザクラとヤマザクラの性質を兼有す、兩者の間品ならんか。

侏 羅 紀 被 子 植 物

小 泉 源 一

化石の上より知らるゝ、地球上最古の被子植物は侏羅紀被子植物化石にして、其數發見されしもの驚くべく少し、此數少き内にも疑はしきもの却て多く、稍たしかなるものは大さう少い。

疑はしきものゝ内には、SAPORTA 氏 LIGNIER 氏等が佛蘭西の侏羅紀下部及び上部より報告せし、*Yuccites*, *Caulomorpha*, *Goniolina*, *Changarniera*, *Palaeospadix*, *Propalmophyllum* あり、HALLE 氏が英國中部侏羅より報告せし *Cloughtonia* あり、東洋にては T-KETOVA 氏が天山の侏羅より *Problematospermum* や本邦の中部侏羅なる手取統よりも横山先生により *Valisnerites* が報告されてある。